

平成30年10月9日(火)

鈴虫やコオロギ、マツムシ、クツワムシ

スズムシもコオロギもバッタの仲間ですが、よく聴くと鳴き声は全く違います。

スズムシの鳴き声は『リーンリーン』と複数回繰り返して鳴きます。

日本では古くから鳴き声を楽しむ対象として扱われており、鳴き方も耳触りがよく非常に美しい音を奏でます。

野外だと『リィィィ・リィィィィ』と少し寂しげな印象です。虫かごの鳴き声と違うため、気づかない人も多いです。

コオロギは様々種類がいて種類によって鳴き声が異なるそうです。

一般的なコオロギの鳴き声は『コロコロコロ…』というのですが、これは『エンマコオロギ』だそうです。

コオロギは種類によっては立派な翅があるのにも関わらず全く鳴くことが出来ない種類もいるそうです。

マツムシの鳴き声は『チンチロリン、チンチロリン』とよくいわれますが、実際の鳴き声は『ティッティリリッ!!』『ピッピリリッ!!』というような鋭くしかも大音量のもので、家の中で飼育しているとしばしば安眠が妨げられるほどだそうです。

クツワムシは「ガチャガチャ」とうたわれていますが、クツワムシは秋虫の王様のような感じです。キリギリスとは逆に暗いと鳴きが良くなるので、うるさい場合には、電気を点けたトイレの中などに入れておくと良いそうです。とても丈夫な種ですので、室内飼育であれば、12月いっぱいくらいまで、生きることでも少なくないそうです。驚きです。

道行くそばからはかない虫の声が聞こえてくると、冬を心に忍ばせるのは私だけでしょうか。ある人は、虫の声を聴くとき、いつも命のことを考えるという言い方をする人がいました。

はかなさは、冬の前の命の響きからなのではないでしょうか。年を取るという実感がようやく身についてきたので、自分の身の上を顧みながら虫の声の響きにはかなさを知らずにはなっていたのでしょうか。

石山の石より白し秋の風

那谷寺(紫式部が源氏物語を執筆した場所)の境内にはたくさんの白石があるが、それより白く清浄に感じるのが吹き抜ける秋の風だ。境内にはおごそかな空気がたちこめている。